

# 友愛の森(二中だより)



## 学校教育目標

二中文化を創造する生徒

学びが深まる授業の創造・認め合える学級の創造・共に高め合う学校の創造

令和7年5月30日発行

## 「行事を通して学んだことを生かす」 教頭 伊山 伸

令和7年度も1ヶ月と半ばを過ぎ、5月22日(木)から24日(土)にかけて、学校行事の中でも大きな行事のひとつである1年生「希翔セミナー」、2年生「自然教室」、3年生「修学旅行」を行いました。どの学年も、「生徒が主体的に行動できる」行事にするため、生徒の皆さんは事前の準備をしっかりと行い、当日に備えていました。

私は、生徒の皆さんの頑張りから、二つのことを学びました。ひとつは「しっかりと準備をすることは、成功するための秘訣である」こと、そしてもう一つは「行事の成功は当日だけでは決まらない」ということです。

一つ目の「準備の大切さ」は、日々の学習や学校生活でもお話ししていますが、校外に出ると、身の回りの環境や自分の置かれる状況は全く変わり、いつもの「予想」や「目安」が通用しないことがほとんどです。その場において環境の違いに驚き右往左往していると、大切な時間がどんどん削られてしまいます。

しかし、様々な状況を予想し、事前に対策をしていれば、焦りながらもある程度は対応することができます。皆さんの準備の様子と当日の行動から、「準備することの大切さ」を改めて学びました。

二つ目の「行事の成功は当日だけでは決まらない」についてです。私は1・2年生の行事に同行していましたが、様々な失敗もありました。でも、その際、生徒の皆さんの中から「この経験を、後の生活に生かしていきましょう。」という言葉が聞きました。皆さんの中には「失敗をそのまま終わらせず、それを経験として次に生かす」という気持ちが育っていたのだと思いました。その気持ちを持ち続けて学校生活を築いていくことで、「(行事で得た経験が生きて)行事が初めて成功となる」ということなのですね。素晴らしい考えを持つことができたとうれしくなると同時に、私自身も「皆さんの考え方や行動から学ぶことができた」と感謝の気持ちも生まれました。

行事明けの27日(火)は、普段の登校のように落ち着いたものでした。生徒の皆さんが、行事で得た「メリハリを付ける」ことを普段の学校生活に生かしていた証拠だと思います。自分たちの行事を「成功」とし続けるために、これからも学校生活の質をより上げていってほしいと願っています。

## バチおどり(宮おどり)練習を行いました。

講師に佐野禎子先生をお迎えして、1年生は、富士宮二中伝統の「バチおどり(富士宮二中オリジナルの宮おどり)」の練習を行いました。富士宮二中を卒業されていった先輩方から受け継がれたバチおどりを、これからも二中の文化として継承していくために、1年生の皆さんは全力で取り組んでいました。



## 今年度も「地区生徒会」を行いました。(5月16日)

今年度も、区長様をお招きして地区生徒会を行いました。二中では、地域防災訓練や秋まつり、三世代交流会など、を通して、地域とのつながりを深めていきます。



## 3年生 修学旅行 in 奈良・京都



北野天満宮



平等院鳳凰堂



東大寺大仏殿

## 2年生 自然教室 in 焼津(焼津青少年の家)&森林講座&企業訪問



2年：竹のおはしづくり



2年：焼きそばづくり



2年：  
富士錦西造(株)様  
(株)アマダ様訪問

## 1年生 学年行事 at学校&in焼津青少年の家(1・2年合同行事)



1年：バチおどり



1年：防災体験学習(ジュニア防災士養成講座)



キャンプファイヤー



チャレンジラリー